文化活動・交流の拠点
ふれあい倉庫「赤れんが6号」

ふれあい倉庫情報

【カルチャーホール】

「第２回　21 世紀鮎田塾」

「当別が発信する北海道」をテーマに「じゃらん」の編集担当者が講演します。

▼日時　２月 17 日（水）18 時 30 分～ 20 時 30 分

▼申込み・問合せ　当別移住促進協議会
(美しいまちづくり課内・☎ 23 － 3073)

「地域情報化セミナー 2010」

▼日時　２月 24 日（水）18 時～（詳細は P17）

「第２回景観セミナー」

１回目に引き続き当別町の景観のイメージについて学び、当別町らしい景観について考えます。

▼日時　２月 26 日（金）18 時 30 分

▼内容　基調講演「当別らしい景観を考える」
講師　橋場　光　氏　コーディネーター　角田　洋　氏

▼問合せ・申込み　美しいまちづくり課（☎ 23 － 3073）

「第７回歴史講座」

▼日時　２月 27 日（土）13 時 30 分～

▼内容　青山、弁華別、六軒町、金沢、中小屋の開拓

▼提言者　大澤　勉　氏

▼主催・問合せ　町教委社会教育課（☎ 22 － 3834）

【多目的ホール】

第３回やさしい風展

当別中学校ときわ学級の生徒の作品展です。生徒一人ひとりの個性を引き出し、作品展全体を心に残る素敵な空間にします。

▼日時　２月 16 日（火）～ 21 日（日）９時～ 16 時 30 分

▼問合せ　当別中学校（☎ 23 － 2158）

スウェーデンパン焼き講習会を開催

町、スピエレットの共催でふれあい倉庫に設置されているパン焼き窯を使ってスウェーデンパン作りをします。昼食は、スウェーデンパンでランチをしましょう。

▼開催日時　２月 19 日・20 日（金・土）９時～ 16 時

▼講師　スピエレット（スウェーデンパン作り実践グループ）

▼募集人数　中学生以上、各日 10 名（2 日受講も可）

▼参加料　１日につき 2,000 円

▼申込期間　２月５日（金）～ 12 日（金）

▼申込先　商工課（☎ 23 － 3129）

▼問合せ　ふれあい倉庫（☎ 27 － 6600）
商工課（☎ 23 － 3129）

続　町長の日記

平成 22 年１月 17 日（日）

今日は阪神淡路の大震災から満 15 年目の日になる。

2、3 日前にカリブ海のハイチで大地震があり何万人もの死者が出たニュースが伝わり、凄まじい破壊の様子と、がれきの下敷きで家族が無残に死亡してしまい、たった一人、生き残った幼い少女の泣き顔の映像を見て「あれがもし私の孫娘だったら」と思ったりもして、ひときわ身にしみる。

私は東京へ出張した時、ここで大震災に遭ったら“一体自分は何日で当別へ帰れるだろう”とふっと思ったことがある。

日本の高層ビルと高速道路や地下鉄は相当強度が高いと信じているが、やはり齢のせいか不安がよぎる事がある。しかし、普段当別で生活している限り、ハイチや神戸のような恐ろしい事は連想しないので、当別で暮らしている事を幸せだと思う。

当別町で取り組んでいる移住促進事業も好評で、この５年で 180 名ぐらいの人が延べ 3,800 日ぐらい当別町で「おためし暮らし」をされている。その内、実際に移住された方は 50 人以上になる。

今年は当別町開拓 140 年なので、10 月中旬に記念式典を催す予定だが、一日だけの行事ではなく、町民の皆さんが開拓から 140 年経った事を一年中、実感出来るようなものにしたいと思う。

「温故知新」古きを訪ね新しきを知る。私はこの言葉を今年は特に意識する。

明治の末期、人口１万人にも満たない当別村の人々が札沼線の敷設運動を始めた。

それも、当時北海道で一番繁栄していた小樽ではなく札幌へ繋ぐ事だった。

その時、札幌はまだ人口６万人ほどだったと言う。

当別の先達の卓越したすごい判断のおかげで今の私達は医療に関しても、高校や大学の教育についても、交通アクセスに恵まれた地域で暮らしていると思う。

もうほとんどの人の記憶から消えようとしているだろうが、昭和 20 年頃、夫の出征中戦災から逃れるため、東京、大阪から当別に疎開されてきた人たちは、今の移住の 50 人位ではなかったはずだ。

当別はいつも人々に安全と希望を保障してきたように思う。

当別町長　泉亭俊彦